

BUMP OF CHICKEN

新旧織り交ぜた楽曲で
世代や時代を超えて共鳴し合う
ファンとメンバーの絆を証明したライブ

この時期にしては異例の寒さとなった広島公演初日。ツアーグッズのパーカーやコーチジャケットに身を包んだファンが、開場後、次々に広い会場を埋めていく。3年ぶりに広島で行われるライブとあって、満場のアリーナ、スタンドには熱気と期待感が漂っていた。

暗転したステージの後方に映像が映し出されると、客席からワッと歓声が上がりみな一斉に立ち上がる。升秀夫(Dr)、増川弘明(G)、直井由文(B)、藤原基央(Vo/G)と1人ずつメンバーが登場し、音を重ねていく。藤原がギターを持つ手を挙げ合図した瞬間、全観客に配られていたリストバンド型ライト・PIXMOBが一斉に点灯。カラフルな光の海が圧巻の光景を作り出し、さらには多色のコンフェッティ(紙吹雪)も舞って華やかにライブがスタートした。

1曲目に披露されたのは『GO』だ。突き抜けるような疾走感ある曲に純度の高い藤原の声、BUMP OF CHICKENの真骨頂ともいえるアンサンブルで、広い会場を隅々まで包み込んでいく。続いて『天体観測』のイントロが聴けると、オーディエンスももうたまらなるとばかりにシンガロング！ 今ツアーは、新アルバムを携えたものではなく、いわば結成から21年のキャリアを振り返るように、新旧織り交ぜたセットリストを堪能できるライブ。



リリースから何年経っても色褪せない輝きを放つ楽曲を、メンバーと同世代のファンはもちろん、子どもから大人までこうして全員で口ずさみながらフロアを揺らしている様子は、彼らの音楽が世代や時代を飛び越えて共鳴し合っていることの奇跡をありありと証明していたように思う。

MCでは、「オールスタンディングだから、しんどくなったら周りの人同士で助けあおうね。近くの人によるしくお願いしますって言うておこう」と直井が促すと、観客同士が互いに挨拶。ステージ上でもメンバーが挨拶しあうといった微笑ましいシーンも。前日入りして全員で宮島へ行ったこと、増川が出店のイカ焼きを藤原に買ってあげたことなど、メンバーの仲の良さが伝わるエピソードの数々に観客も全員笑顔だ。より一層会場が盛り上がったのは、直井が即興で披露した「広島グリーンアリーナ」コール。MCの場でコール&レスポンスしてステージと客席を一体化したのはもちろん、その後もライブ中盤で藤原が曲の合間に唐突に入れこんだり、アンコールの掛け声になったりと、この日のライブを象徴する印象的なコールとなった。

「全力でみんなの近くから音を届けるので、全力で聴いてもらっていいですか」と、ステージや花道、花道の先端に設けられたサブステージと場所を変えながら、より客席の近くで演奏するメンバー。『記念撮影』や『アリア』、『アンサー』、『リボン』など、ここ1年で配信リリースしてきた楽曲にもファンは大合唱や拍手で応え、PIXMOBの輝きや飛び交うレーザーもまた会場全体を彩り、歓喜の色で染め上げた。

アンコールでは、藤原が「本当に久しぶりに演奏します。今ツアーでも初めてやる曲」と紹介してから『Merry Christmas』を披露。歌い終わった後は「この曲は、もう10年くらい前に作ったもの。それからライブでは長らくやる機会がなかったのに、今日こうして演奏できて、みんなも口ずさんでくれて、この曲もすごく喜んでくれていると思う。みんなに聴いてもらいたくてツアー中の今も曲を作っているけど、こうして聴いてもらえることを僕らは当たり前だと思ってないから。どうか本当に、これからも聴いてやってください」との言葉とともに深々とお辞儀。この言葉に、BUMP OF CHICKENの全てが表れている。3年ぶりのこの場この瞬間の喜びをメンバーとファンで共有し合う、絆の強さがしっかりと見えたライブだった。



SET LIST

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 01. GO | 11. アンサー |
| 02. 天体観測 | 12. ラフ・メイカー |
| 03. ray | 13. アリア |
| 04. トーチ | 14. Butterfly |
| 05. Everlasting lie | 15. fire sign |
| 06. 記念撮影 | 16. リボン |
| 07. pinkie | |
| 08. 友達の唄 | ENCORE |
| 09. 涙のふるさと | 01. Merry Christmas |
| 10. You were here | 02. ガラスのブルース |